

広報TSB

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE

第18号

令和2年度 後期

コロナ禍の 新米の室長の私

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

学生支援室長 瀬戸典彦



室長としてのスタートはコロナ禍の入学式でした。本学では、学生課が入学式のコーディネートを担当することになっています。令和二年度入学式は、従来の入学式とは異なる、様々なイレギュラーな対策を要する緊張感を伴うものとなりました。感染拡大防止への配慮を最優先することとし、保護者様に御臨席をご遠慮いただくこと、大学と短大の式典を時間差で分けること、席と席の間隔を確保すること、式典前の環境消毒を徹底すること等、それら全ての準備を、事務職員の方々と学生支援委員会の皆さんと一緒に、ようやく終えようとした、まさにそのタイミングで緊急事態宣言発令の知らせを聞きました。結局、裏方の責任者となって初めての入学式は挙行されず、準備にあたり、何一つの確な判断を下せなかった自身の無能さのみを知る経験となりました。

その後、自身の無能さだけではなく、驚くべき無知にも直面しました。担任として十二年間

勤めさせていただいた経験から、ある程度は理解していると勘違いしていた学生支援の本質についてさえ全く理解が足りておりませんでした。特に奨学金に関する無知については、弁解の余地もありません。また、後援会役員として本学を親身にサポートして下さる方々の存在と皆様のボランティアに関する認識が不十分であったことを痛感しました。さらに、学友会活動については、学生支援室長としての関わり方に関して考えたことさえありませんでした。十二年間、東北生活文化大学の一員として、多くを感じ、学び、少しは成長できたので、という主観的な自己評価への懐疑心が膨らみ続けた一年を終えようとしています。

今も時折、一年前の学長室でのことを思い出します。重い責務を担うこととなったあの出来事は、もう一人の重要人物が関わっています。その方が、この勇気ある人事を提言されたのかもしれない。私が「はい」とお答えした時、同じカウチの左側にお掛けになった副学長が、笑みを浮かべながら、語られた一言を覚えていました。「立場が人をつくるから」と仰いました。

You can't teach an old dog new tricks. とよく耳にしますが、今のこの無能、無知の私が、コロナ禍、新しい立場で何を学習し、どのようにしてお役に立てるのか、それを試行するお時間をもう少しお与え下さいますよう、この機会をお借りして、お願い申し上げます。

大学家政学科

短信



令和二年度秋・冬の家政学科の様子をお伝えします。

新型コロナウイルス禍の影響で、対面授業の開始が六月末からとなりましたが、後期は九月十七日より全面対面授業を開始しました。冬場の感染者増を見越して、実習・実験科目を学期前半に集中的に実施する変則的な授業実施体制で臨みましたが、幸い、一月末の後期授業終了まで遠隔授業への移行無しに進めることができました。

健康栄養学専攻三・四年生の臨地実習はこの状況下で延期・中止が相次ぎましたが、日程調整の繰り返しと、特例によるリモート実習により、何とか四年生は終了できました。

九月二十九日に登録販売者試験の合格発表があり、健康栄養学専攻二年生から六名が合格しました。さらに昨年登録販売者試験に合格した三年生が薬学検定に挑み、一級に五名、二級に一名合格しました。「薬に強い栄養士」の育成が着々と進んでいます。

コロナ禍で多くの制約がある中でも恒例行事は工夫を凝らして実施されました。

大学祭は十一月二十二日にオンライン開催され、健康栄養学専攻の学生たちが運営の主力を担いました。服飾文化専攻ではファッションショーの、健康栄養学専攻では栄養指導の動画配信を行いました。

服飾文化専攻の、「小中学生のためのファッションカレッジ二〇二〇『おしゃれ上手は洗濯上手』」もウェブ

配信での開催となりましたが、一か月足らずの配信期間に二〇〇回を超える視聴がありました。

恒例のファッションショー外部公演は、今年度は通常の実施は困難とみて、ランウェイでのショー形式は諦め、衣装展示主体のファッションエキシビションとして開催準備中です。



▲家政学科課題研究発表会

大学美術表現学科

(生活美術学科)

短信



令和二年度後半の活動は、美術鑑賞旅行(二年度次)、博物館実習旅行(三年度次)、大衡村ふるさと美術館の企画イベント、第四十七回大美学科内コンクールがコロナ禍で残念ながら中止、延期となりましたが、学生の個人活動はコロナ禍にもかかわらず着実に研究発表活動が行われました。

四年間の集大成となる第五十三回生活美術学科卒業制作展は、四年生と研究生計十八名の作品が展示され例年通りせんだいメディアテークを会場に行われました。コロナ感染対策を充分に行った結果、好評の

うちに終了しました。同時に、美術学部のデザイン、陶芸の授業紹介、学生作品が展示されました。卒業制作、授業作品とも様々な技法で制作された新鮮な感覚の作品は、素晴らしいという声も聴かれ、コロナ禍の中多くの来場者に感動を与えました。

在学生による創作、発表活動の一端を紹介します。

九月 「第六感展」美術学部版画研究室(中本誠司現代美術館)、「HIDDEN DOOR」絵画表現同好会(ギャラリー専)、「第五十七回宮城県芸術祭彫刻部公募展」(せんだいメディアテーク)では、岩渕伶奈さん(二年)、上田拓人さん(二年)、今泉葉月さん(二年)が入選しました。

十月 佐藤李菜(研究生)個展「わたしの思う都市計画」二〇一九学部内コンクール中本誠司美術館賞受賞(中本誠司現代美術館)

十一月 「第一回杜のみやこ工芸展」(TFUギャラリーミニモリ)では平野高真さん(二年)が東北福祉大学賞を受賞しました。

十二月 絵画市「あの絵画飾っています」美術学部一年十八名、二年一名の十九名によるグループ展(A R C G A L L E R Y)

二月 吉田瀬七(四年)個展「追憶」(中本誠司現代美術館)、「象る現る展」岩渕伶奈さん(二年)、大沼雅史さん(二年)、音海はるさん(二年)、鳥陰幸乃さん(三年)によるグループ展(ギャラリーターニアラウンド)

さらに、コンペ等で学生の活躍も多数見られました。

仙台市食育推進ロゴマークコンペでは、遠藤はるかさん(二年)が最優秀賞を受賞、佐藤菜美さん(三年)、上田拓人さん(二年)が優秀賞を受賞しました。

滋賀県立陶芸の森陶芸館で開催された「がちやが



▲卒業制作展(授業紹介ブース)

ちゃデザインコンペ」で銀賞に輝いた遠藤未菜さん(二年)の作品は、ミュージアムショップでカプセルに入りガチャガチャマシんで発売されました。

美術学部二年生「視覚デザイナー」の授業で仙台市自転車安全利用啓発ポスターを仙台市の依頼で制作しました。三十六名の受

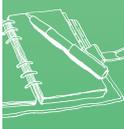
講学生が六チームに分かれデザイン案を練り、二チームのポスターが採用。今後市内に貼り出されて自転車安全利用の啓発に活用されます。

おいしい東北パッケージデザイン展二〇二〇では、遠藤はるかさん(二年)が紅花香茶のパッケージデザインで審査委員賞を受賞しました。

その他教員による個展、グループ展、学会活動。卒業生の公募展、グループ展や個展、発表等制作・研究活動も充実し、大いに在学生の刺激になっています。

短大生活文化学科

短信



今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、後期も学外実習の予定変更、大学祭のオン

ライン開催など、例年にない状況は続きました。

授業

新型コロナウイルス感染症の第二、三波を想定して、後期を前後に二分割し、前半に実験・実習等対面授業を集中、後半に遠隔授業が可能な科目を集中させる変則的な時間割で行いました。

学科の行事

十月に予定されていた大学祭はオンライン開催となり、例年の専攻企画は行われませんでした。

食物栄養学専攻

栄養士基礎演習(一年生)はますみ保育園や学外の施設見学がキャンセルとなりました。

十一月～十二月 給食管理実習Ⅲ(校外実習)(二年生)

小学校、保育所、陸上自衛隊駐屯地に分かれて、五日間の校外実習が行われましたが、陸上自衛隊駐屯地での実習の一部、特別養護老人施設の実習は、実習先の都合により学内での実習に振り替えられました。

二月一日 校外実習報告会(一・二年生)

子ども生活専攻

十月 幼稚園実習(二年生)

三週間に短縮された日程で行われました。また一部の学生は施設実習などの日程が後期に変更されました。

二月 基礎実習/ますみ幼稚園(一年生)

二月一日 保育実習(保育所実習、施設実習)報告会、教育実習(幼稚園実習)報告会、保育実践報告会(一・二年生)

地域貢献活動

地域への貢献も本学の使命の一つですが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、すべての活動がキャンセルされました。

両専攻とも校外実習では、厳格な体調管理、様々な制限、準備にあまり時間がかけられなかったなど厳しい状況のなか、二年生は頑張りました。

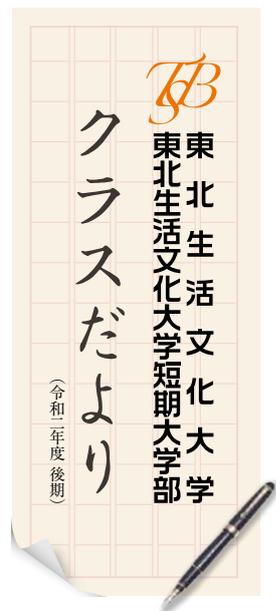
令和三年度も新型コロナウイルス感染症については予断を許さない状況ですが、学内でクラスターが発生しないよう、今後も注意を払って教育活動を行ってまいります。



▲校外実習報告会



▲保育実践報告会



大学服飾文化専攻 1年

例年通りではないことばかりの令和二年度でしたが、服飾文化専攻一年生たちは、大学での講義・実験・実習に全力で取り組んでいたようです。学内外の活動のいくつかはオンラインで行われるなど「密」を避けるための工夫がなされました。十二月五日には、四年生の課題研究発表会を別会場からオンラインライブ聴講しました。服飾分野の研究発表だけでなく、教育分野、食物・栄養分野の発表にも熱心にメモを取りながら聞いていた姿が大変印象的でした。そろそろ大学生活への慣れから、体調管理や生活習慣などにゆるみが生じやすい時期に入りますので、しっかりと目を配っていききたいと思っています。

大学服飾文化専攻 2年

早いもので大学生活四年間の折り返し地点が見えてきました。学生生活にもコロナ禍で様々な悪影響が出たことは否定出来ませんが、まずは一人の感染者もなくここまで来られたことを良しとしなければならぬかもしれません。特に、例年九月に実施する研修旅行を年明けである今年二月に延期しましたが、これも再延期するしかなく苦慮しています。引き続き、一人ひとりの学生の意見に耳を傾け、今後の対応について模索していくこととなります。

多方面で困難な状況はしばらく続くと思われるます。しかし、世の中がどのような状況になろうとも、今年には特に大学卒業後の進路にスポットを当て、学生が目標を見失うことなく大学生活を送れるよう、今後も一層の努力をする覚悟です。

大学服飾文化専攻 3年

三年生の後期は感染防止に最大限取り組みながら、主に対

面授業（一部、オンライン遠隔授業）で学びました。一番注目したのは「専門研究Ⅰ」の発表会です。この授業は今年度から通年の履修になりました。発表後、学長が批評としてサイエンスの必要性を力説しました。学生も教員もその条件について考えさせられたと思います。

三月上旬にはファッションエキシビションが三越のエル・パーク仙台で開催されます。今年度は服飾文化専攻三年生二名が総括を務めます。「ショー」ではなく「展示」の発表になります。服飾文化専攻の学生による質の高い作品を披露できると思います。

もうすぐ就活が本格化します。学生には、早めに、多くのエントリーを心がけるよう伝えます。ご家族からもご支援よろしくお願い申し上げます。

大学服飾文化専攻 4年

昨年一月頃「五輪効果」により、今年度は好景気が見込まれていました。しかし実際には、この原稿を執筆している今、十一都府県に対して「緊急事態宣言」が再発出され、就職活動をはじめ、様々な面において新型コロナウイルス感染症に翻弄され続けております。

このような試練のときではありますが、学生から進路決定の古報が届いてきております。

今後につきましても、オンラインや対面での個別面談を通じて、学生一人ひとりの「将来の夢の実現」を支えていく所存です。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の収束、ならびに皆様のご健康をお祈り申し上げます。

大学健康栄養学専攻 1年

後期においては対面授業を最後まで続けることができてきました。これもひとえに学生やご家族様の真摯な感染症対策のおかげと思っております。さて、対面授業にも慣れた一年生ですが、九月からは専門教科の学びもスタートし、勉強に四苦八苦する姿も見受けられるようになりました。他方、十二月には四年生の課題研究発表会（卒論発表会）にも参加をし、勉強だけではない研究という大学ならではの部分に魅力を感じてくれた学生が多かったようです。好きな勉強は頑張れるもの。担任として学生の興味や関心を大切に、管理栄養士国家試験の合格に向けて、彼・彼女らの学びの育ちを見守っていききたいと思えます。

大学健康栄養学専攻 2年

後期は講義に加えて実習等が多くなり、これまで以上学業に励む姿が見られました。先輩方の実習報告会や外部講師の方々の講話を聴講することで、管理栄養士業務についての理解が深まり、今後の臨地実習に向けた事前準備もできたと思われまふ。工場見学研修ではコロナ禍のため、クラス全体での実施はできませんでしたが、見学を通して、それぞれしっかりと学べたようです。また、初的大量調理実習に挑み、試行錯誤しながら仲間と協力しあう大切さや達成感を学んだと思います。体調面にも気を付けながら、それぞれの進路に向けてより一層前進できるように支援してまいります。

大学健康栄養学専攻 3年

健康栄養学専攻三年生は、校外実習の実施がコロナ禍の影響で、日程が変更になるなど、困難な状況が続いていましたが、実習先の担当者との綿密な打ち合わせで、無事に実習を終えることが出来ました。実習中に行った栄養指導の内容は、オープンキャンパスでも紹介することが出来ました。

また、十二月には全国栄養士養成施設協会主催の栄養士実力認定試験を受験しました。三年間の学習の成果が結果に出ていることを期待しています。

春季休業中に、これまでの学習内容のまとめを十分に行い、最終学年を迎えてもらいたいです。

大学健康栄養学専攻 4年

今年度は新型コロナウイルスの影響により、春の教育実習は秋に延期になり、就職活動や病院・施設での実習などもほとんどがオンラインで行われる不測の事態を経験しましたが、各自何とか乗り越え、就職率も例年並みの水準で推移しております。十二月初旬には、オンライン課題研究発表会を行いました。一月末には課題研究論文の提出、二月末には管理栄養士国家試験があります。就職も管理栄養士国家試験も目標をもってやり遂げることが大事だと伝えております。四年間の集大成に向けて教職員一丸となって試験直前まで励まし、応援してまいります。

大学美術表現学科 1年

一年生は四、五月に大学の基礎となるべき行事（ウェルカムパーティー、オリエンテーションキャンプ、東京研修旅行）が全て中止。六月から一般教養は遠隔授業で行われ、実技授業が対面授業で開始。この中でやっと美術学部の学生たちがものをつくるという空間の中に入ることが出来たのが十一月に延期となった大学祭。大幕を一年生が二、三年生の指導により製作。また、十二月に開催されたクリスマスイルミネーション展示は、二年生を中心に一年生が参加参加した学生たちは、何もかもが制約の中だったので、顔も晴れやかに、私たちが教員は、学生たちの笑顔とやっとうち会うことができました。

大学美術表現学科 2年

後期も新型コロナウイルスの影響により、制作活動に制限の多い一年となりましたが、各方面より朗報が届いています。仙台市「食育推進」ロゴマーク（公募）では、遠藤はるかさんが最優秀賞、上田拓人さんが優秀賞を受賞しました。また、令和元年度美術表現学科内コンクールで最優秀賞を受賞した岩渕怜奈さんが個展を開催するなど、学外にも活躍の場が広がっています。

四月からは卒業制作や卒業後の進路を視野に入れながら、コース制に分かれ、高度な専門的技術を習得していきます。大学生生活も折り返し地点です。自分自身の将来を見つめて、今できることを実践してほしいと思います。

大学生生活美術学科 3年

三年次後期に入り、専門科目と技法研究を履修し、卒業制作や卒業後の進路を見据える時期になりました。一部の学生は就職活動のためのポートフォリオ制作に取り組み始めています。

後期の学生たちの活躍として、佐藤菜美さんが仙台市食育推進ロゴマークのデザインコンペで優秀賞を受賞。栗原市との連携プロジェクト「サンキューベリーマッチ展」では、菅原志織さん・八巻楓華さん・米倉幸花さんがポスターを制作し、広報を行いました。また、佐藤菜美さん、佐藤実令さん、佐藤実結さん等も参加し、小学生に向けた絵画のワークショップを行いました。

シヨップを行いました。コロナ感染症対策のためにオンライン開催となった大学祭では、学生たちが協力して美術の企画を考え、映像制作などでも盛り上げました。今期は、通常であれば対面で行っている授業や課題を遠隔や郵送等で実施し、できる限りの対策を行ってきました。今後もクラス全員で協力し、健康に四年次を迎えられるよう努めて参ります。

大学生生活美術学科 4年

四年生後期の半年間は、大学四年間の集大成としての卒業研究（制作）に本格的に取り組まれました。卒業制作展は新型コロナウイルスの感染対策を講じた上での開催となり、苦勞を余儀なくされましたが、無事に開催できたことに皆が安心したと思います。何事もなく順調に進むことは理想的ですが、今年のように、卒業研究、就職活動、感染対策、展示期間中に発生した地震への対処といった、どれを取っても大変なことを並行してこなした経験は無駄ではありません。気づかないうちに、これからは生きる力となっているでしょう。

四月からは多くの学生が社会人となります。大学での学びを活かし、一人ひとりが新しい一歩を踏み出すことを期待しております。

短大食物栄養学専攻 1年

本学は後期から対面授業を開始しましたが、一人も欠けることなく授業日程を終了することができました。学内においては朝と昼の検温をはじめ、手指や机の消毒など、でき得る限りの感染防止対策を実施してきましたが、学生たちの協力により、無事に後期を乗り切ることができました。

今年度は入学式をはじめ多くの学内行事が中止となり、六月末までの授業は遠隔になるなど、大変つらい日々を強いられることになりました。そんな中でもクラスの皆は穏やかに、仲良く、よくまとまって今日まで進んできてくれました。

新年度には、このような素晴らしい学生たちに一日も早く普段の生活に戻ってきてくれることを祈るばかりです。

短大食物栄養学専攻 2年

従来とは異なるオンラインでの企業説明会や面接に尻込みすることなく、食物栄養学専攻二年生の多くは早々と内定を得て、就職活動を終えることができました。この後期は校外実習や栄養士実力認定試験を控え、より一層学業に熱心に

取り組む姿が見られました。

例年六月から順次行われていた校外実習は、新型コロナウイルスの影響で延期となりましたが、一部学内みなし実習を含め、十一月から十二月にかけて無事に実施することができました。二月に行われた校外実習報告会では、二年生たちの成長を実感し、非常に頼もしい限りでした。短大で学んだことを活かし、今後更なる活躍をしてくれるものと期待しております。

短大子ども生活専攻 1年

子ども生活専攻一年生は、後期に入ってからすっかり学校にも慣れた様子で学校生活を送っています。ただ、コロナ禍で大学祭にも参加できないままになってしまいました。そこで、毎年大学祭で続けてきたファンタジーランドの一番の呼び物である寸劇「三島レンジャー」を台本から書き上げて演じることにしました。皆で力を合わせて作り上げた作品は、素晴らしい仕上がりで学生たちも達成感を味わうことができました。うに思います。また、二月二日からはますみ幼稚園で初めての実習も行われ、子どもと直接関わる機会も持つことができました。来年は、いよいよ本実習です。皆で手を取り、励ましながら保育者になるための歩を進めてほしいと願っています。

短大子ども生活専攻 2年

保育所実習Ⅱが終わってすぐに後期の授業が始まり、引き続き幼稚園教育実習に向けての取組がスタートしました。例年四週間行っていた実習はコロナの影響で三週間と短くなりましたが、学生にとっては保育所実習Ⅰが実施できなかった不安がある一方、幼稚園の現場もまたコロナへの対応に追われており、通常の実習とは違うたくさんの苦労がありました。直前になって実習を断られる例もあり、実習先や実習期間の変更も数多くありました。

短大の授業も遠隔授業の影響などもあり、補講が続くという厳しい現状がありました。

そして今、それぞれが自分の道を見つけ、卒業の日を迎えようとしています。コロナ禍という未曾有の環境の中で学習に取り組む乗り越えたという自信を胸に、新しい一歩を踏み出してほしいと心から願っています。

三島学園創立百二十周年記念特別講演会 「三島学園とみやぎの美術家」

令和二年十月二十八日、本学の百周年記念ホールで創立百二十周年記念の特別講演会を開催しました。講師に前宮城県美術館館長、そして本学理事である有川幾夫氏をお迎えして「三島学園とみやぎの美術家」と題した講演を頂きました。美術学部が新たな第一歩を踏み出すこの時期に相応しい内容だったと思います。

本学美術学部の前身「生活美術学科」の開設期に関わりのあった美術家や教職員について、記録を調べ、またエピソードを交えながらのお話を伺いました。創設当時の功労者のひとり日本画の莊司福先生をはじめ、学科創設のキーパーソンである工芸家デザイナーの安倍郁二先生、西洋美術史の森口多里先生、絵画の橋本八百二先生、幻想主義的抽象作家の宮城輝夫先生、彫刻の翁朝盛先生、美学の六波羅久男先生、洋画家の吉見庄助先生、女流作家の深沢紅子先生、現代美術家の村上善男先生などの多様な顔ぶれ等、その当時のユニークな学科のありようがうかがい知れる内容でした。

この講演が三島学園創立百二十周年記念特別講演会として本学園の歴史に刻まれたことをうれしく思います。



仙台市「食育推進」ロゴマーク採用決定

仙台市内の様々な団体が一体的に食育を推進し、市民に広く食育を周知していくための共通のツールとする「食育推進」ロゴマークの募集にて、本学美術学部から以下の三名が各賞を受賞しました。三名のうち、最優秀賞を受賞した遠藤はるかさんのデザインが、仙台市「食育推進」ロゴマークに採用されました。

■最優秀賞 二年 遠藤はるか
【デザインコンセプト】

食事はお腹を満たすだけでなく、コミュニケーションを通して心を満たすものだと思います。その心とお腹が満たされた瞬間を「食べ物を頬張る笑顔」で表現し、食事の楽しさをストレートに伝えました。仙台らしさの象徴として、仙台の食文化と関わりのある食通だったという「伊達政宗」をモチーフにしました。また、推進活動が広まることで、ロゴマークが使われる機会が増えて「笑顔が増えていく」という意味も込めています。



■優秀賞 三年 佐藤菜美



■優秀賞 二年 上田拓人



オンライン大学祭「繋和(けいなぎ)」



今年度は課外活動を担う「学友会」活動も新たな感染症に大きな影響を受けました。新体制発足は九月となり、毎年恒例の新入生ウェルカムパーティーをはじめ、あらゆるイベントが中止となる中、大学祭だけは何としても実現したいという学生たちの強い熱意があり、去る十一月二十二日、学園史上初のオンライン大学祭が「繋和(けいなぎ)」(大学と地域、新入生と在学生をつなげる人の和の意味)をテーマに開催されました。

配信動画の主なコンテンツは各サークル、各学科専攻の学生たちが独自に作成した特色あふれる企画となり、また当日の生配信の背景となった大幕も圧巻で、まさに「芸術は爆発だ! (古いですがね...)」の表現がびつたりのものでした。学業面も変則的かつ両立が難しく厳しい環境の中、仲間と短期間で作り上げた集中力は見事なものでした。当日の様子は大学ホームページの「TSB FES2020」バナーから、YouTubeアーカイブとして閲覧が可能です。是非ともご覧いただき、学生さんたちの熱いエネルギーを感じ取ってみてください。

「宮城県、仙台市、宮城県内9大学等、七十七銀行、仙台銀行及び仙台商工会議所の連携協力に関する協定」を締結しました

十二月二十一日、仙台国際ホテルにおいて、本学を含む十四の事業協働機関による産官学連携協定を締結しました。

コロナ禍の折ではあるものの、関係機関より対面方式の協定締結式開催について多数の賛成意見をいただいたことを受け、代表者が一堂に会しての協定締結式を開催することができました。

この度の協定締結にあたり遠藤信哉宮城県副知事は「本協定では、これまで取り組んでまいりましたCOC+事業に引き続き、新卒者の県内就職率向上や雇用創出に取り組むこととしており、富厚躍進を支える人づくりの推進に向けて県としても大いに期待し、皆様と連携・協力を層図つてまいりたいと考えております」と語り、郡和子仙台市長は「仙台市では、これまで五年間に百三十四人の学生記者さんに地元企業百六十社の取材をしていただくWISE事業に取り組んできた他、地元就職を考えるフォーラムの開催など、地元企業の魅力発信と学生と企業が交流する機会の創出を行ってきました。今回の協定締結を契機に若者がこの地に定着する、あるいはこの地を選ぶ環境整備により「層努めてまいりたいと考えております」と、産官学連携による人材育成、地方創生の可能性へ期待のお言葉をいただきました。

本協定締結により、今後は事業協働機関が手を取り合い、話し合い、創意工夫しながら地域社会が発展する取り組みを積み重ねていきたいと考えています。

■一、協定締結の経緯

文部科学省管轄により地域再生・活性化の拠点となる大学形成を目指し、二〇二三年から「地(知)の拠点整備事業(COC)」が開始され、二〇二五年からは、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」において、産官学連携による地域志向人材育成が求められました。二〇二五年度東北学院大学を事業協働機関として申請し、「みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材の育成」事業が採択されました。二〇一九年度をもって五年間の

事業が終了したことにより、二〇二〇年四月よりCOC+事業を承継する形にて、この度、産官学連携プラットフォームを構築、協定締結に至りました。

■二、連携協力について

本プラットフォームでは、COC+事業からの継続として、①教育カリキュラム運営、②キャリア支援、③地元定着推進を主な事業とする他、宮城県内における産官学全体の興隆に寄与するために、さまざまな課題に対して協働で対応することを目的として連携いたします。

■三、事業協働機関

【自治体】宮城県、仙台市
【高等教育機関】東北学院大学(事務局)、尚絅学院大学、聖和学園短期大学、仙台大学、仙台白百合女子大学、東北生活文化大学、東北生活文化大学短期大学部、宮城学院女子大学、仙台高等専門学校
【企業等】株式会社七十七銀行、株式会社仙台銀行、仙台商工会議所



みやぎベジプラスメニュー

平成二十八年県民健康・栄養調査結果によると、宮城県の二十〜四十歳代では、目標の一日三五〇gに対し野菜が約一〇〇g不足しています。また、予備群も含め、メタボが全国ワースト三位。高血圧の受療率も高く、その原因のひとつに食塩摂取量の多さが挙げられています。これを受け、県では、県民の健康への意識を高めることを目的に「野菜! あと



「一〇〇g」「減塩! あと三g」を目指す、「ベジプラス100&塩e0」推進事業を行っています。

本学からは健康栄養学専攻食物学研究室が協力し、ベジプラスメニュー「みなさんに食べてほしい! みやぎの海の幸・山の幸弁当」を考案、株式会社ウジエデリカより商品化が決定しました。メニューは、鮭ときのこガーリック焼き(ターメリックライス)、ごろごろ野菜と豚肉長芋巻の黒酢あん、生姜香る小松菜と大根のお浸し、じゃがいものチーズ焼きです。三月二十八日まで県内ウジエスパー等において販売されます。

第五十三回生活美術学科卒業制作展

二月十二日から十七日まで、せんだいメディアアテックで第五十三回生活美術学科卒業制作展が開催されました。初めて挑戦する技法や表現方法があったり、これまでで一番大きな材料やキャンバスに向き合ったりと、学生それぞれが試行錯誤して作品を完成させました。今年度の四年生は在籍数が少ないため、会場での空間構成が少し心配ではありませんが、搬入・設置の日は学生同士が協力し合い、とても良いバランスの展示空間が出来上がりました。照明の当て方にも工夫が見られ、作品を観てもらうことに意識を向けている姿には成長を感じました。

今年度は新型コロナウイルスの流行により、開催時間の短縮や感染対策など、例年の卒業制作展にはない準備が必要となり、一人ひとりの仕事量が増えてしまいました。また、開催期間中の十三日の夜には大きな地震が発生しましたが、翌日の開催時間前に集まり、協力して会場の復旧に努めました。この苦しい状況を乗り切ったことは、今後社会人としてスタートを切る際の大きな自信となるでしょう。



PHOTO ALBUM

(令和2年度 後期)



給食管理実習

10月21日、健康栄養学専攻2年生の「給食管理実習」を実施。対象を65歳以上の男女とし、高齢者施設給食の献立を提供しました。



サンキューベリーマッチ展

11月1日、美術表現学科の学生たちが、栗原市栗駒の旧みちのく風土館において、「サンキューベリーマッチ展」マッチ箱アートワークショップを開催しました。



令和2年度家政学科課題研究発表会

12月5日、今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、6号館3階大講義室において実施。密にならぬよう、別講義室において、発表風景を後輩たちに配信しました。



三島レンジャー

コロナ禍により、大学祭や学外での公演が出来ない現在、子ども生活専攻「三島レンジャー」動画制作に取り組んでいます。この動画は県内各幼稚園等に配布予定です。



クリスマスイルミネーション

毎年開催している学生会主催のクリスマスパーティー、今年は開催を断念。そんな状況の中、美術表現学科の1・2年生たちが、少しでもクリスマスの雰囲気味わってもらうために制作しました。



「仙台ひと・まちチャンネル」のサムネイルデザイン制作

(公財)仙台ひと・まち交流財団の公式YouTube「仙台ひと・まちチャンネル」のサムネイル等を、服飾文化専攻3年の遠藤優佳さんと門脇優奈さんがデザインしました。



佐藤淳一教授が、「地域文化功労者」表彰

令和2年度、本学美術学部、佐藤淳一教授が「永年にわたり、彫刻家として優れた活動を行い、地域文化の振興に貢献している」として表彰されました。これを記念し、3月23日から28日まで、晩翠画廊において彫刻展が開催されます。



小中学生のためのファッションカレッジ2020「おしゃれ上手は洗濯上手」

今年度、当初夏に講座を予定していましたが、コロナ禍であり、リスク回避で動画配信することとなりました。現在、本学HP服飾文化専攻ブログで公開中です。



教育実習報告会

2月8日、教育実習・栄養教育実習を実施した教職課程履修者4年生による報告会。密集を避けるため、4会場に分け、ZOOMにより、後輩たちに伝えました。

就職支援センターから

◎コロナ禍における就職支援

新型コロナウイルス感染は一向に衰える気配を見せていない中、2022年卒の学生の就職活動が3月1日より本格的にスタートします。初めて社会に旅立とうとする学生にとって就職活動は期待や不安などの様々な思いや感情が絡み心が不安定になりがちです。今の学生はそれに加え新型コロナウイルス感染拡大による社会経済の大きな変化という怪物と向き合わなければいけない状況に置かれています。

1月に入り就職活動を控えた学生からの不安を訴える相談が増えています。特にアパートで独り暮らしをしている学生の置かれている状況はかなり深刻です。新型コロナウイルス感染拡大防止のため実家に戻ることも出来ず、身近なところに相談できる人がなく一人で悩み苦しんでいます。このような状況下において就職支援担当者に求められることは、学生の話にそっと耳を傾け不安な気持ちに寄り添い心を支え、責任を持って最後まで面倒をみることだと思います。私の学生時代の就職活動の時期に「私を必要とする会社があるのか」とか「社会で本当にやっていけるのか」等不安ばかり先だったことを思い出しながら、学生との相談に向き合っています。

 東北生活文化大学
東北生活文化大学短期大学部

このロゴマークは、本学の理念・目標を表現し、広く学内外にアピールするために、大学創立50周年を契機に作成し、平成22年4月1日に制定されました。東北生活文化大学・同短期大学部の英語表記の頭文字「TSB」をモチーフにし、人を結び繋ぐことがイメージされています。「広報TSB」も、保護者と大学とを結び懸け橋となることを願って命名しました。

広報TSB 第18号

[発行] 令和3年(2021年) 3月1日

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

〒981-8585 仙台市泉区虹の丘1丁目18番地の2

TEL 022-272-7520 FAX 022-301-5602

ホームページ <https://www.mishima.ac.jp/tsb/>

Facebook <https://www.facebook.com/mishima.tsb>

Twitter https://twitter.com/mishima_tsb